

令和4年度 第10回江別市かわまちづくり勉強会 会議録（要点筆記）

日時	: 令和4年9月1日（木）18:00～20:30
場所	: 江別市コミュニティセンター 1F多目的ホール
一般会場参加者	: 18名（参考：かわまちづくり協議会委員3名 一般参加15名）
一般オンライン参加者	: 6名
事務局	: 経済部次長、商工労働課長、商工労働課主査（2名）、観光振興課長、建設部都市建設課長、土木事務所治水課長
その他	: 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所（4名）

会議概要

1. 開会

2. 議事

(1) かわまちづくり計画の登録（説明：事務局 半田主査）

(2) 前回勉強会の振り返り（説明：事務局 半田主査）

ミズベリング江別 林代表に司会進行を委任

(3) 意見交換（司会：ミズベリング江別 林代表）

- ・ 林代表:4月30日に開催されたかわまちづくり展示会でどんなことをやって、どんなことが得られたかを教えてほしい。
- ・ 江別河川事務所 濱口課長:急に開催が決定してドタバタの準備だったが、勉強会に参加していない方や散歩途中の方も参加してくれた。かわまちづくりや今度行う予定の堤防整備の話ができて色々な人に事業を知ってもらえたのと、クラフトビールのキッチンカーを呼んでイベントらしくなったのが良かったと思う。
- ・ 参加者:まぐれのイベントではなく、事前に周知して公式な形でやっていくのもよいと思う。クラフトビールをやった人は道内にファンがたくさんいて、その人を訪ねて今回のイベントに来た人がいた。このように、ファンがたくさんいる人を条丁目地区や江別市に呼ぶことで、来訪したファンが新たな江別の魅力を感じて帰っていくことに繋がるのだと感じた。
- ・ 林代表:ファンがたくさんいる人の情報を皆で共有して、その人がもし来てくれるのであれば、プロモーション発信やチラシ等の事前企画をしっかりやるのが良いと思う。良い人材が集まり始めているということだと思う。
- ・ 林代表:対岸の防災ステーション付近で実施したミズベリング江別のキャンプについても、簡単にどんな人とやってどんな人が来たか報告してほしい。

- ・ 参加者：自分の息子の友達等ある程度の人数を呼んでやってみようということで、事前に江別河川事務所に草刈りしてもらい、キャンプをした。6時頃から現地に行って、テントを設営して炭を起こして食事をしながら語り合った。国道12号から結構距離があって、交通量が多くても意外に静かなので、イベントやキャンプをやるにしても適地だと思う。当然ながら水もトイレもないし、割と風が強いので、そういうところが課題だと思う。非常に天気良くて良い実験だったので、継続して実施していきたい。
- ・ 林代表：キャンプとして色々な人を楽しんでもらうとなった時に、本当に楽しめるかどうかは別で、風も強いし水もトイレもないので、そこを解決できるかが重要だと思う。
- ・ 参加者：最近、北広島や恵庭方面でキャンプ場が新しくオープンしているが、札幌圏や江別市街地からも近いので魅力的だと思う。通行する人がいないプライベート感も売りのポイントになってくると思う。
- ・ 林代表：実際やってみて、外からの視点で見て何か面白いと言ってもらい、そこでまた中の人気づく、そういうやり取りが非常に重要だと思う。
- ・ 林代表：ミズベリング江別と江別河川事務所の共催で実施した「水辺で乾杯」について何かありますか。
- ・ 江別河川事務所 大石所長：飲んだり川に行ったり何か好きという人が集まってやればという思いで実施した。今回は条丁目地区の人に声をかけるまでにはいかなかったが、勉強会参加者も集まれる機会を増やせたらと思う。こういう所から面白い考えが出てくることもよくあるので、継続してやっていきたい。
- ・ 林代表：まちづくりワークショップという形で実施すると、来る人来ない人が分かれるが、軽いノリで来られる場所を作るのも非常に大切だと思う。こういうのが文化になって、特定の日何かやっていて皆がそこにふらっと行ける敷居の低い場みたいものがあるといいと思う。
- ・ 林代表：かわまちフェスタについて報告をお願いしてもよいか。
- ・ 北海道情報大学 藤本准教授：7月30日、31日にかわまちフェスタを実施した。企画準備段階から活動してきたゼミ生から内容報告をする。

学生によるかわまちフェスタの発表

- ・ 参加者：この日は同時多発的に色々な場所で色々な人が関わっていた。これも少しドタバタな感じだったが、北海道情報大学の藤本ゼミ生が条丁目地区に何度も来て一緒にイベントをやって、信頼関係というか距離が縮まった気がする。他の大学生もイベントに来ていて、街に20代の若者がいる状況が増えているので、もっと巻き込めないかなと思う。

- ・ 参加者：江別神社の御神水や江別のお米を使って作ったお酒を JR 江別駅と連携して PR したら、予想外に好評だった。物を販売して売り上げを上げるのではなく、街に興味を持ってもらうという意味では成功したと思う。江別駅に条丁目地区の幼稚園のお子さんが描いた塗り絵を今も展示をしているが、それをきっかけに幼稚園の先生たちにかわまちづくりのことを伝え、今日ご参加いただいているので、そういう意味でも良かったと思う。
- ・ 参加者：当日真願寺をお借りして、告知もせず小規模で実施した。鉄道を全面にやろうと思ったが資料が揃わず、急遽、昔の街の風景のスライドショーを作成し、詳しい方に解説してもらった。参加者は多くなかったが、高齢の人は昔を懐かしみ、若い人はそういう街だったと改めて感じたと思う。映像が欲しいとか、もう一回見たいという方もいるので、また実施できればと思う。今まで、学生が条丁目地区に関わってくることがなかったが、学生が街に来れば街が変わると考えているので、今後もこのような活動を是非とも協力して一緒にやっていけたらと思う。
- ・ 参加者：条丁目地区が寂れた理由が分かれば、元に戻らないにしてもどうしたらいいのかがはっきりしてくると思う。
- ・ 林代表：昭和の時代のことを考えながら次の時代のことを考えないといけなると改めて思った。一番感動したのが、学生が人を繋いでいる感じが非常にあった。ただ学生が来て何かをやったということではなく、色々な人がフォローしてくれてお店の人と繋がりながらやっている。

休憩

- ・ 林代表：対岸側の河川空間を対象に、かわまちづくり計画を実現するには何をしたらよいか、誰が何をしたらよいかを深掘して意見交換をしたい。近くにある保育園として、子供たちのためにこんな場所があったらいいという意見があれば聞かせていただきたい。
- ・ 参加者：地元の方から、今後堤防工事が入って綺麗になるということで楽しみにしている。付近を散策して感じるのは、子供たちが遊ぶ場所が少ないことである。近所に遊べる場所があると子どもが増え、足を運んでくれる機会が多くなると思う。
- ・ 林代表：子どもが増えて来ているというのが一つの機運としてあると思う。子供たちがどう街で楽しんでくれるかといったアイデアを作って、条丁目地区に子どもを預けたい、住んでみたいという人が増えていくとよい。
- ・ 参加者：小学生の子供たちの居場所と自然活動が一緒にできると良いと思う。幼児保育だけではなくて、小学生の預かる場所としても活用できると、幅広い世代や親御さんにとって住みやすい場所になっていくと思う。

- ・ 林代表：プレイパークという考え方もあるが、例えばキャンプのエリアで自然体験をしながら遊んで育つというような条丁目スタイルがあってもいいと思う。安心して子どもを行かせられる体制も必要だと思う。
- ・ 参加者：イベントに子どもたちが参加して楽しむのもあるが、自分たちで作るともっと主体的になれるので、自分たちが積極的に関わっていくスタイルがあってもよいと思う。
- ・ 参加者：倉庫の解体時に出たレンガを使って作品作りを大麻地区でしているが、条丁目地区でやったらよりローカルな取り組みになるかもしれない。
- ・ 参加者：レンガを使った絵具で作った作品が江別の特産品になれば、観光協会もPRしやすいと思う。子ども向きというのも珍しいので、かわまちづくりのイベントで幼稚園と繋がったら何かできそうな気がする。既に1回やっているのだから、あとはやるだけだと思う。
- ・ 小篠会長：レンガを粉砕した絵具で絵を描いていくことで記憶を地域に伝える、子どもたちの心の中に伝えるのは、非常に大事なことである。子どもたちの中に条丁目地区で育っていく人がいるわけで、かわまちづくりの活動に繋がるという脈絡を作れば良いと思う。それぞれの人が思い付きでやっているイベントをかわまちづくりのために意味があるという理由付けができれば、ここに集まっている人たちと一緒にできるということになる。
- ・ 林代表：何のために誰のためにやっているのかを確認していけるとよい。江別の歴史とレンガを記憶に残していく活動でいくと、やきもの市が流れを作ってきたと思う。
- ・ 参加者：15年近く前にやきもの市で、書道家の方に畳4枚くらいの大きな半紙に大きな筆で書いてもらったことがある。例えば、子どもたちがそういうものを書いて楽しんでもらうというものをメインイベントとして合わせてやると、一層記憶に残ると思う。
- ・ 参加者：全道の作家のやきもの作品を一堂に販売できる販売所を作れないか。旧岡田倉庫を活用すれば、100人分くらいは並べられると思う。
- ・ 林代表：イベントではなく常設の事業を展開していかなければいけないという大事な示唆だと思う。
- ・ 参加者：かわまちづくりに参加してから、常々思っていることがある。条丁目地区にはスーパーがなく、高齢者は買い物をするのが大変で、ただ不便だけでなくご飯を食べなくなっている。かわまちづくりも堤防整備もよいけれど、教員住宅、江別小学校跡等の課題が地域の課題として全部繋がっているので、地域エリアで考えていく必要がある。江別市全体の中の条丁目地区がどんどこるか、課題を地域エリアでシェアする意識になってきたと思う。
- ・ 林代表：エリア全体でシェアして、かわまちづくりを一個ずつ進めるには何をやっていかないといけないのか、何が足りないのかを教えてください。

- ・ 小篠会長：皆さんの色々な活動・繋がりが出てきて、新しく勉強会に参加された方々が素敵なアイデアや取り組みを紹介してくれて、それが自然発生的に広がって組み合わされているという良い予感を感じる。場当たりにやったり大急ぎでやっているのが現状なので、何かやりたいことが有る人、やれる場所を探している人、江別の外を超えて繋がっている人たちが、何か問い合わせや、相談できたり、繋ぎの場所とかワンクッション受け止める機能がそろそろないと、色々な活動を支え切れなくなる。条丁目地区に色々な人とのハブ、中核になれるような機能なり人なりがこれから必要になってくると感じる。
- ・ 参加者：私の地元の新冠町だとこのような活動は見ない。この街では凄く色々なことを、しかも条丁目地区の中でやっている色々なことが街全体に広がって、街全体に還元されるようなシステムがこれからできていけば良いと思う。新冠町は JR 日高本線が数年前の高潮の影響で廃線になり、廃駅になったとたんに色々なものが凄い勢いで廃れ始め、駅もただのバスの乗り場になってしまった。鉄道の歴史と街は密接に関わっていると感じるので、街の生活の一部にこういうものがあるというのを広められれば良いと感じている。
- ・ 参加者：物流の拠点として近代江別の発展を支えたのが江別港だったが、江別、条丁目地区、江別港でそういった場所ができて展開されるのが理想だと思う。
- ・ 参加者：キャンプされた場所にちょっと遊びに行きたいとなった時に草が伸びていると利用しづらい。定期的に草刈りはされているのか。
- ・ 江別河川事務所 濱口課長：これまで草刈りは基本的に年 1 回だけ実施してきた。かわまちづくりを応援するという部分で、江別市から相談があれば、予算の問題があるがなるべく協力したいと考えている。年 1 回に限らず草刈りをするようになると思う。
- ・ 江別河川事務所 大石所長：誰も使う人がいないのに常に草刈りをするようなことはしない。地域として必要だ、誰かがこういう使い方をするから草刈りが必要だとなれば、支援する形でやっていきたいと思う。使い方や誰が何をやるかについて意見を出して、方向性を作っていただければよいと思う。
- ・ 参加者：今年やきもの市の会場が変わったが、コロナ禍だからなのか、今後も移してしまうのか。駅前の一番大きなイベントがなくなってしまい、とても寂しく感じるので、会場がまた駅前に戻って来るのか気になる。
- ・ 参加者：当初は商店街の中の会場という位置付けでやっていたが、30 年経過して、商店街そのものがほぼ消滅し住宅地化してきたこと、このエリアで収容できるだけのイベント規模ではなくなってしまったこと、来訪者のための駐車場がなく輸送手段が確保できないことが大きな事情としてある。条丁目地区で開催するのは、環境や住民負担等の問題を考えると厳しい。ただ、江別にとって必要なイベントであると認識しており、今年会場を変えて開催した次第である。

- ・ 参加者：自分には保育園に通う子どもがいるが、親として子どもを川に連れてくのが結構怖くて、それは多分自分も川と触れ合ってこなかったからだと思う。そういうのが続いていくと、どんどん子どもたちが川に行かなくなる。リスクマネジメントが必要でしっかり囲って防ぐのも一つだが、人が遊びに行くと川のここが危ないとか分かるような、学びの場になると良いと思う。
- ・ 参加者：イベントをやるまでは大変だったが、子どもから楽しい感想をもらえた時に自分たちも頑張った良かったと感じた。かわまちづくりとは一切関係ないが、もし江別の高校に書道部があったら、レンガを使った新年の書道パフォーマンスをやれたら非常に良いと思う。
- ・ 参加者：江別の活性化のようなテーマの事業になると、大概が外から人を呼ぶことになるのが、思ったより江別市内にいる人が多いので、今住んでいる人が便利で楽しめるようなことを考えてみても面白いと思う。
- ・ 北海道情報大学 藤本准教授：ゼミ生が色々四苦八苦しなながら、色々な人と関わって助けられて、色々なことを実現できる場が江別に沢山あることに感謝している。
- ・ 参加者：徐々に新しい方が参加してくれる感じになってきて、とても嬉しい。地域のために何ができるかがかわまちづくりにも絶対繋がるので、引き続きやってみようと思っている。
- ・ 参加者：子どもたちがこの地域で楽しく伸び伸びとできるような環境になってくれたらいいと思う。鉄道の塗り絵のように、お手伝いできるようなことがあれば、声を掛けていただければと思う。
- ・ 参加者（オンライン）：子どもたちが自分の事だと思ってやるのが大事だと思う。皆が何かの自分が得意な物のプロになることで、運営の基盤ができるかもしれない。
- ・ 参加者（オンライン）：条丁目地区はステージ、そこで演じる役者が市民、かわまちづくりのメンバーは脚本家で、ステージを作るための皆さんの目的があれば良い。そこで色々なドラマを演じる鉄道、やきもの、プカプカ、皆が参加できる仕組みを作ることが大事で、その母体になる受け皿は必要である。
- ・ 林代表：皆が目指す共通概念というところで、誰のために何を目指すのかといったところも非常に大事な視点だと思う。
- ・ 参加者：実家が条丁目地区から少し離れているが、条丁目地区のことはずっと気になっていた。河川敷だけじゃなくて、条丁目地区や駅前といった広いエリアで考えられると良いと思う。
- ・ 参加者：元々商店街は二階が住居で一階が店舗になっているので、二階に年寄りが出て、市が補助金を出して一階を改装して、若い人や商売をやりたい人が使うようなシステムはできないか。昔は川を利用して篠津や月形等から江別に来て鉄道に乗っていたので、船を利用した通勤もできると思う。

- ・ 参加者：時間が許す限り、自分が得意とするような活動を引き続きやっていきたい。その活動の中から色々な課題を洗い出し、この街を発展させるためにどうしたらよいのか、何を作ったらよいのかを皆さんと一緒に考えていきたい。今年の秋にキャンプをやってみたいと考えているので、藤本ゼミの学生と語り合えたらよいと思っている。
- ・ 参加者：大川通の突端はえべつ市民祭りの時に花火を打ち上げる場所になっていた。昔、船着き場をステージにして階段護岸を客席にして空気の座布団を配って、両側で川を挟んだ野外ステージのイメージで、リバーサイドフェスティバルという実験的なイベントをやったことがある。また、公売のオークションにかかった屋形船を活用して、千歳のインディアン水車から防災ステーションの船着き場まで川を下るコースを組んでもらったこともある。
- ・ 参加者：誰のためにやったことがこの街にどういう影響があるのか、皆さんで今後考えていただきたいと思う。日常生活のレベルまで上がってくるようなものにしないと、街づくりは完成しないと思うので、一步その先もどんどん考えていただきたい。ちなみに、かわまちづくりは冬の期間は一切やらないのが前提なのか、何か活用を探っていくのか。
- ・ 事務局 半田主査：冬もかわまちづくりは進めることで考えており、勉強会等の場で定期的に議論を行っている。かわまちづくり計画の中にも施策として冬のアクティビティプランを考えていくことにしている。
- ・ 参加者：やきもの市を開催するにあたり、色々な機関に申請書を出しに行ったが、担当窓口でやきもの市について聞かれた。30年やってもその程度の認識なのだ、つまり人の心にその程度しか響いていないのだと身に染みてわかった。10年後にこの熱量を皆さんが出し続けられるか、皆にどれだけ浸透させることができるかが非常に重要だと思う。
- ・ 参加者：今日きっかけに何かできることがあったら是非協力したい。

3. その他

- ・ 参加者：次回以降の勉強会や全体の流れについて、根幹に係わる部分で懸念があることから質問させてほしい。次回以降話題になるアートスペース外輪船、旧岡田倉庫は江別市の指定文化財になっているが、今年3月の文化財保護委員会の議事録に「文化財として可能な限り創建当初の復元をする努力を求め」旨の委員長の発言がある。かわまちづくり計画が登録されるまでの期間中に、その後何か協議を行ったのか。かわまちづくり計画の中で旧岡田倉庫を活用する旨の文言が多々出てきており、文化財保護委員会の方針と相反する内容になっている。ここを解決しないと今後進んでいけないと思う。現状復旧についてどのように考えているのか。

- ・ 事務局 川島課長：現在のホールとして活用されている状態で文化財指定を受けており、修復等をする場合は極力元の姿に戻してほしいという付帯意見がついていた。堤防整備によって旧岡田倉庫を移設しなければいけないということで、一度解体して別の場所に復元すること考えている。復元にあたっては、文化財としての価値、建築基準法の耐震性、消防法の問題等色々な条件がある。勉強会や協議会でのアイデアや意見に後押しをいただきながら、皆さんが一番活用できる形で復元する方向で、文化財保護委員会や建築審査会と協議を行うつもりである。また、隣接する旧岡田住宅の活用に関する意見を事前にいただいているが、これについても、旧岡田倉庫とセットで検討していただくのがよいと考えている。江別市役所の各部署が協力しながら、一番良い形になるよう委員会との協議を進めていきたいと考えている。
- ・ 参加者：今の説明を踏まえると、3月から先に進んでいない、三者が納得するところに至っていないということか。私があえて話したのは、こうした状況がかわまちづくり計画書の中に不安要素として入っていることを皆さんにも知っていただきたいことが質問の趣旨である。
- ・ 事務局 川島課長：不安要素として捉えず、旧岡田住宅も旧岡田倉庫もどう使うかは白紙であると前向きに考えていただきたい。ただ、建築基準法や文化財保護の問題等色々な前提条件があるので、かわまちづくり計画のアクティビティや堤防の形状等を含めた皆さんのアイデアで後押ししてもらいながらクリアしていくことになると思う。
- ・ 事務局 渡部次長：教育部が所管している文化財保護委員会において、文化財の視点でこういった意見が付帯されたという経過があり、今後、文化財保護委員会や教育部と調整しながら、かわまちづくり計画や文化財保護の視点も踏まえた上で、ベターな答えを模索していくことになる。より良いものを作り上げていくために、タブーをなくして議論していただきたい。

4. 閉会

以上